

官佛蘭西
法律書
商法

四

東京圖書館

新門 一

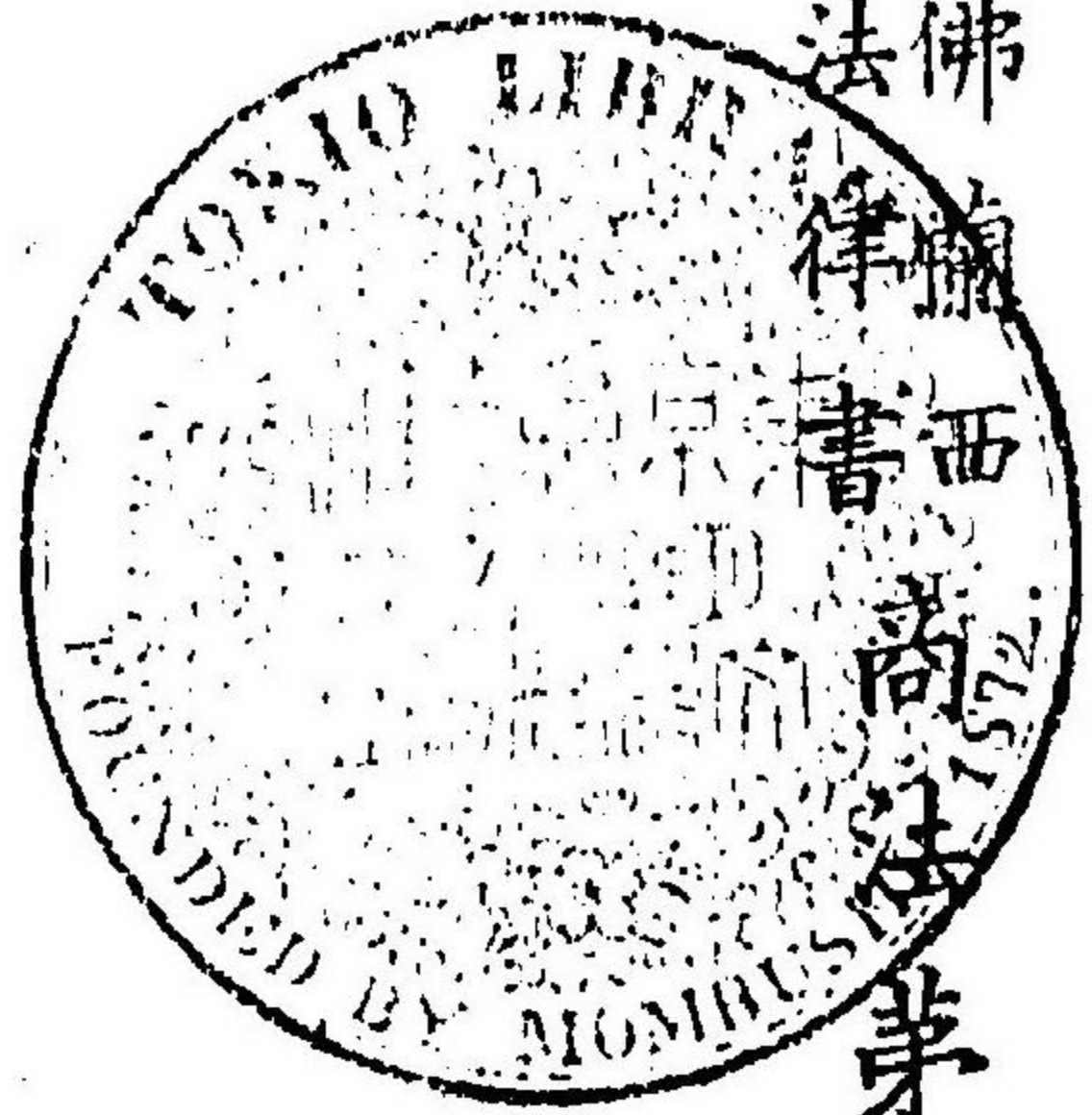
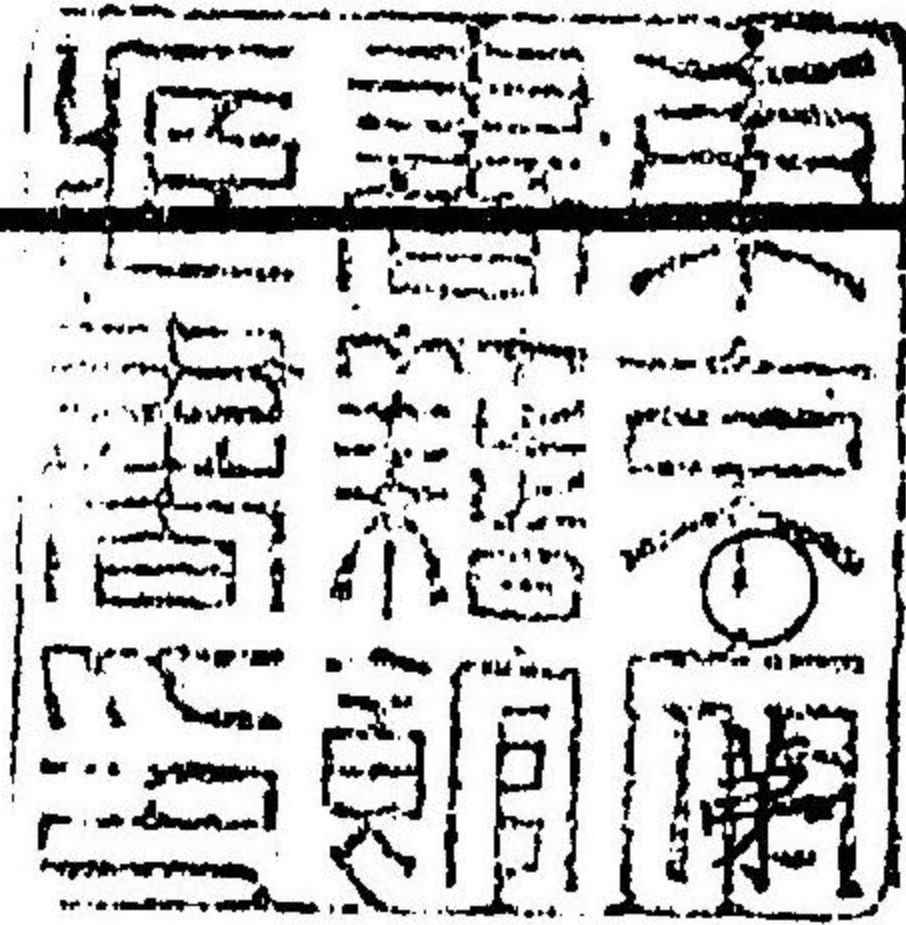
部 一

類 四〇九〇號

CF2
3
07

共五本

CF
3
07



佛蘭西商法第四

權大内史箕作麟祥 譯

明治九年文部省發行

三篇

家資分散ノ事及ト通常ノ倒産並ニ詐偽ノ倒産ノ事(千八百三十八年五月廿八日決定六月八日布告)

○第一卷 家資分散ノ事

○總規則

第四百三十七條 總テ金高ヲ拂フヲ止メタル商人ハ家資分散ヲ為シタルモノトス商人死去ノ時金高ヲ拂フヲ止メタル時ハ其死去ノ後家資分散ヲ公告スルヲ得可シ其公告ハ裁判所ヨリ言渡レタルト債主ヨリ訴タルトヲ問ハス其商人ノ死去シタルヨリ一年内ニ之ヲ為ス可シ

○第一章 家資分散公告ノ事及ヒ其公告ノ効

第四百三十八條 總テ家資分散ヲ為シタル商

人ハ金高ヲ拂フヲ止メタルヨリ三日内ニ其住所ノ商法裁判所ノ書記局ニ其旨ヲ届出ツ可シ但シ金高ヲ拂フヲ止メタル日ハ其三日ノ期限内ニ合算ス可シ合名ノ會社家資分散ヲ為シタル時ハ其届書ニ社中各人ノ姓名住所ヲ記ス可シ但シ其届書ハ會社ノ首屋所在ノ地ノ商法裁判所ノ書記局ニ差出ス可シ

第四百三十九條 家資分散ノ届書ニ添テ積書ヲ差出ス可シ若シ之ヲ差出サハル時ハ之ヲ

差出シ能ハサル原由ヲ其届書ニ記ス可シ○
 其積書ニハ家資分散人ノ動産及ヒ不動産ノ
 目録其見積リ直段貸高借高利益及ヒ損失ノ
 目録費用ノ目録ヲ記シ家資分散人其真正ナ
 ル證ヲ附記シテ且之ニ日附ヲ為シ姓名ヲ手
 署ス可シ

第四百四十條 家資分散人ノ届ニ因リ又ハ債
 主ノ訴ニ因リ又ハ裁判所ノ職務ニ因リ商法
 裁判所ノ言渡ヲ以テ家資分散ヲ公告ス可シ
 但シ其言渡ハ假リニ之ヲ執行フ可シ

第四百四十一條 家資分散ヲ公告ス可キ言渡
 書ニ因リ又ハ其後掛リ裁判役ノ申立ノ上為
 シタル所ノ言渡書ニ因リ裁判所ニテ家資分
 散ニ管係アル者ノ求メニ從ヒ又ハ公務ヲ以
 テ其分散人金高ヲ拂フヲ止メタル期日ヲ
 定ム可シ○其期日ヲ別段定メタルヲナキ時
 ハ家資分散ヲ公告ス可キ言渡ヲ為シタル時
 ヨリ金高ヲ拂フヲ止メタルト看做ス可シ
 第四百四十二條 前二條ニ循ヒ為シタル裁判
 言渡書ハ第四百十二條ニ記シタル方法ニ循ヒ

分散ヲ届出タル裁判所所在ノ地ト分散人ノ
舗店アル各地トノ新聞紙ニ記入シ且貼附ヲ
為ス可シ

第四百四十三條 家資分散ヲ公告ス可キ言渡
ヲ為シタル時ヨリ後ハ家資分散人現ニ所有
スル財産並ニ後ニ所得トスルトアル可キ財
産ヲ支配スルノ權ヲ失フ可シ
同上ノ言渡ヨリ後ハ總テ分散人ノ動産又ハ
不動産ニ管スル訴ハ分散管財人ニ對シテ之
ヲ為ス可シ

又分散人ノ動産又ハ不動産ノ抵償トシテ差
押スル訴ハ亦分散管財人ニ對シテ之ヲ為ス
可シ

然レ裁判所ニテ相當ト思量スル時ハ同上ノ
訴ニ分散人ヲ干渉セシムルヲ得可シ

第四百四十四條 家資分散公告ノ言渡ヲ為シ
タル時ハ未タ拂期限ニ至ラサル負債ト雖モ
拂期限ニ至リレモノト為ス可シ

ビエータルドルルル第百八十七條見合ニ姓名ヲ手署シ

タル者、為替手形ノ金高ヲ拂フ可キ承諾ヲ為

シタル者其為替手形ノ拂方之ヲ拂フヲ承
 諾セサル時其手形ヲ差立テシ者ノ分散シタ
 ル場合ニ於テハ其分散人ト連帶シテ義務ヲ
 負フタル者拂期限ニ至リ其金高ヲ拂フ可キ
 ノ保證人ヲ立ツ可シ若シ保證人ヲ立テサル
 時ハ即時ニ其金高ヲ拂フ可シ第百六十
 三條見合
 第四百四十五條 家資分散ヲ公告ス可キ言渡
 フ為シタル後ハ債主其分散人ノ財産合部債
 主
 全貸ノ引當中ヨリ其息銀ヲ得可カラス其言
 渡前
 ト為スモノ當中ヨリ其息銀ヲ得可カラス其言
 渡前
 ノ利息ヲ得可シ但シ特權アル債主又ハ動産或

ハ不動産ヲ質トシテ得タル債主ハ此例ニ非
 ス
 然レモ特權アル債主又ハ動産或ハ不動産ヲ
 質トシテ得タル債主ハ其引當ト為ス財産ノ
 價高ノミヲ以テ其息銀ヲ得ルニ充テ用フ可
 シ
 第四百四十六條 裁判所ニテ分散人ノ金高ヲ
 拂フヲ止メタル日ナリト定メタル期日ノ
 後ニ分散人ノ為シタル左ノ諸件又ハ其期日
 ヨリ前十日內ニ分散人ノ為シタル左ノ諸件

ハ其財産合部ニ付キ其効ナレトス
 動産又ハ不動産所有ノ權ヲ償ヲ得スレテ
 人ニ讓ル證書
 未タ拂期限ニ至ラサル負債ヲ償ヲ為メ人
 ニ貨幣ヲ拂ヒ又ハ財産ヲ渡シ或ハ賣リ或
 ハ相殺スル事○既ニ拂期限ニ至リシ負債
 ニ付テハ貨幣又ハ手形ヲ除クノ外其他ノ
 物件ヲ以テ其負債ヲ人ニ拂フタル事
 分散人以前負フタル債ノ為メ己レノ動産
 又ハ不動産ヲ人ニ質ト為ス契約

第四百四十七條 分散人金高ヲ拂フヲ止メ

タル後未タ分散ヲ公告ス可キ言渡ヲ受ケサ
 ル前ニ其分散人既ニ拂期限ニ至リシ負債ヲ
 人ニ拂フタル證書又ハ償ヲ得テ人ニ財産ヲ
 賣渡ス證書ハ其分散人ヨリ金高ヲ受取リタ
 ル者又ハ其財産ヲ買入タル者其分散人ノ金
 高ヲ拂フヲ止メタル旨ヲ知テ此等ノ事ヲ
 為シタル時ハ之ヲ取消スヲ得可シ

第四百四十八條 法ニ適シテ得タル書入質ノ

權及ヒ債主ノ特權ハ家資分散ヲ公告ス可キ

言渡ヲ為ス日ニ至ル迄之ヲ役所ノ簿冊ニ記入スルヲ得可シ

然氏分散人金高ヲ拂フテ止メタル期日ノ後ニ同上ノ權ヲ役所ノ簿冊ニ記入シ又ハ其期日ヨリ前十日内ニ之ヲ記入シタル時同上ノ權ヲ得ル證書ノ日附ト其記入ノ日附トノ間ニ十五日以上ノ日數ヲ隔テタル時ハ其記入ノ効ナキ言渡ヲ為ステ得可シ

書入質ノ權又ハ債主ノ特權ヲ得タル地ト記入ヲ為ス可キ地トノ間五ミリヤメートルノ

路程毎ニ其十五日ノ期限ニ更ニ一日ヲ増ス可シ

第四百四十九條

分散人金高ヲ拂フテ止メタル期日ノ後未タ分散ヲ公告ス可キ言渡ヲ受ケサル前ニ其分散人為替手形ノ金高ヲ拂フタル時ハ其分散人ノ債主ノ全負其手形ヲ差立テタル者ノミニ對シ其金高取戻ノ訴訟ヲ為ステ得可シ

此二箇中何レノ場合ニ於テモ債主ハ其取戻ノ訴ヲ受タル者手形又ハ證券ヲ出シタル時

分散人ノ既ニ金高ヲ拂フヲ止メタル旨ヲ知リタルノ證ヲ立ツ可シ

第四百五十條 分散人ノ家屋ノ持主其貸賃ヲ得サルニ付キ分散人商業ヲ為スニ必用ナル動産ヲ抵償トシテ差押ヘントスル處置ハ分散ヲ公告ス可キ言渡ヨリ三十日ノ間之ヲ猶豫ス可シ但シ此規則アリト雖モ其家屋ノ持主己レノ權利ヲ保護スル處置並ニ其持主其貸シタル家屋ヲ直チニ取戻ス可キ權利ハ貸與期限ノ終リタルノ差支トナルヲナカル可シ

家屋ノ持主直チニ其家屋ヲ取戻ス可キ權利アル時ハ此條ニ記シタル如ク分散人ノ動産ヲ抵償トシテ差押ユル處置ヲ為スニ付キ三十日ノ猶豫ヲ為スニ及ハス

○第二章 掛リ裁判役ヲ任スル事

第四百五十一條 商法裁判所ヨリ家資分散ヲ公告ス可キ言渡書ヲ以テ其裁判役中ノ一人ヲ掛リ裁判役ニ任ス可シ

第四百五十二條 掛リ裁判役ハ速カニ分散ニ付テノ處置ヲ為シ且其處置ヲ監督ス可キノ

任アリ

掛リ裁判役ハ不散ノ事ニ付キ生シタル商法
裁判所管轄ノ争ヲ裁判所ニ申立ツ可シ

第四百五十三條 掛リ裁判役ノ言渡ハ別段法
律上ニ定メタル場合ノ外ハ故障ヲ述フル
ヲ得ス但シ其故障ノ申述ハ商法裁判所ニ之
ヲ為ス可シ

第四百五十四條 商法裁判所ハ何時ニテモ分
散掛リノ裁判役ニ代ヘ他ノ裁判役ヲ任スル
ヲ得可シ

○第三章 財産ニ封印ヲ為ス事及ヒ分
散人ノ身體ニ付テノ處置

第四百五十五條 分散ヲ公告ス可キ言渡書ニ
因リ裁判所ヨリ分散人ノ財産ニ封印ヲ為ス
事及ヒ負債者ヲ入置ク可キ預リ所ニ其分散
人ヲ留置ク事又ハ取締ノ官吏又ハ裁判所ノ
官吏或ハ備警兵ニ其分散人ヲ預ク可キ事ヲ
言渡ス可シ

然レ掛リ裁判役一日内ニ分散人ノ財産ノ目
録ヲ記シ得可シト思量スル時ハ別段封印ヲ

為スニ及ハス直チニ其目錄ヲ記スルニ取掛
ル可シ

分散人ハ其負債ノ種類ノ如何ナルヲ問ハス
之ヲ獄ニ繫ク可カラス又他ノ事故アリテ既
ニ獄舎ニ繫カレタル時ハ更ニ引續テ之ヲ繫
キ置ク可キヲ言渡ス可カラス

第四百五十六條 分散人第四百三十八條及ヒ
第四百三十九條ノ規則ヲ遵守シ且分散公告
ノ時他ノ負債ニ因リ又ハ其他ノ原由アリテ
既ニ獄舎ニ入りタルニ非サレハ裁判所ヨリ

其分散人ヲ預リ所ニ入レ置ク事又ハ其身體
ヲ取締、官吏又ハ裁判所ノ官吏或ハ備警兵
ニ預クル事ヲ宥免スルヲ得可シ
其宥免ノ言渡ハ其時ノ模様ニ從ヒ債主ノ訴
ニ因リ又ハ裁判所ノ公務ヲ以テ後ニ之ヲ取
消スルヲ得可シ

第四百五十七條 高法裁判所ノ書記官ハ分散
人ノ財産ニ封印ヲ為ス可キヲ命シタル言
渡書ノ趣意ヲ遲延ナク治安裁判役ニ報告ス
可シ

又分散人逃亡シ又ハ其財産ノ全部又ハ一部
 ヲ他所ニ搬運シタル時ハ治安裁判役未タ封
 印言渡ノ報告ヲ得サル前ト雖モ自己ノ職務
 ニ因リ又ハ債主ノ求メニ因リ封印ヲ為ス
 ヲ得可シ

第四百五十八條 封印ハ分散人ノ倉庫、鋪店、金
 櫃、書類、簿冊、書類トミウブルトモヘイモビリエ
 ールニ之ヲ為ス可シ
 合名商社ノ分散シタル時ハ其商社ノ首タル
 家屋ト商社中各人ノ住所トニ於テ封印ヲ為

ス可シ
 何レノ場合ニ於テモ治安裁判役ハ封印ヲ為
 レタル旨ヲ遅延ナク商法裁判所ノ上席人ニ
 報告ス可シ

第四百五十九條 商法裁判所ノ書記官ハ分散
 ヲ公告ス可キ言渡アリレ時ヨリ二十四時間
 ニ其言渡書ノ拔書ヲ其裁判所ノ檢事ニ送達
 ス可シ但其拔書ニハ其言渡言ノ大畧ヲ記ス
 可シ

第四百六十條 分散人ヲ預リ所ニ入レ又ハ之

第四百五十五條ニ記シタル者ニ預ク可キ
言渡ハ檢事ノ申立ニ從ヒ又ハ分散管財人ノ
求メニ因リ之ヲ為ス可シ

第四百六十一條 分散人ノ金高ヲ以テ分散公
布ノ言渡ノ費用、其言渡ヲ新聞紙ニ記入シ及
ヒ其言渡書ノ寫ヲ貼附スルノ費用、封印ヲ為
スノ費用、分散人ヲ執ヘ預リ所ニ留メ置クノ
費用ニ充ルニ足ラサル時ハ掛リ裁判役ノ言
渡ニ從ヒ官金ヲ以テ其費用ヲ立替置キ官ニ
於テハ後ニ其分散人ノ財産ヲ賣拂ヒ得タル

金高中ヨリ其償ヲ得可キノ特權アリ但シ其
特權ヲ以テ分散人ノ家屋持主ノ特權ヲ害ス
ルコトナカル可シ

○第四章 假リノ分散管財人ヲ任スル
事及ヒ退クル事

第四百六十二條 商法裁判所ニ於テハ分散公
告ノ言渡書ヲ以テ假リノ分散管財人一人又
ハ數人ヲ任ス可シ

掛リ裁判役ハ債主等ヲ其時ヨリ十五日ニ過
キサル期限内ニ集會セシメ其集會ノ時債主

等ノ算計書ヲ作ル事并ニ真ノ管財人ヲ任スル事ニ付キ其債主等ト商議ヲ為ス可シ但シ掛リ裁判役ハ債主等ノ述フル所ヲ調書ニ記シテ之ヲ裁判所ニ示ス可シ
 裁判所ニテハ其調書ト債主等ノ算計書トヲ檢視シ且掛リ裁判役ノ申立ヲ聽キタル上ニテ假リノ管財人ニ代ヘ真ノ管財人ヲ任シ又ハ假リノ管財人ヲ真ノ管財人ニ改メ任ス可シ
 真ノ管財人ハ總テ分散人ノ財産ヲ處置スル

諸事ノ終ルニ至ル迄其職務ヲ行フ可シト雖モ別段定メタル場合ト法式トニ循ヒ商法裁判所ヨリ之ヲ退クルヲ得可シ第四百六十六條第四百六十七條見合
 分散管財人ノ數ハ何時ニテモ之ヲ三員ニ増スヲ得可シテ之ヲ債主中ヨリ擇ミ又ハ債主ニ非サル者ヲ用フルヲ得可シ又其管財人ハ其管財ノ處置ヲ為シ終リ其算計書ヲ出シタル上謝金ヲ受クルヲ得可シ但シ其謝金ノ高ハ裁判所ニテ掛リ裁判役ノ申立ヲ

聽キタル上之ヲ定ム可シ

第四百六十三條 分散人ノ血属又ハ姻属ノ親
第四百級ニ至ル迄ノ者ハ分散管財人トナル可
カラス

第四百六十四條 管財人ノ負數ヲ増シ又ハ之
ヲ退ケントスル時ハ掛リ裁判役ヨリ裁判所
ニ其旨ヲ申立テ裁判所ニテ第四百六十二條
ニ記シタル法式ニ循ヒ更ニ他ノ管財人ヲ任
ス可シ

第四百六十五條 分散管財人數人アル時ハ皆

連帶シテ其職務ヲ行フ可シ然レ掛リ裁判役
ハ其管財人中ノ一人ニ別段定メタル處置ヲ
為ス可キノ任ヲ授クルヲ得可シ但シ其別
段定メタル處置ニ付テハ其任ヲ受ケタル管
財人ノミ其責ニ任ス可シ

第四百六十六條 分散管財人ノ所為ニ付キ争
ノ生スル時ハ掛リ裁判役三日内ニ其裁判ヲ
為ス可シ但シ其裁判ニ服セサル者ハ商法裁
判所ニ訴ヘ出ツ可シ
掛リ裁判役ノ裁判ハ假リニ之ヲ執行フ可シ

第四百六十七條 掛り裁判役ハ分散人又ハ債主ノ求メニ因リ又ハ自己ノ職務ヲ以テ管財人中ノ一人又ハ數人ヲ退ケント裁判所ニ申述ルヲ得可シ

若シ分散人又ハ債主管財人ヲ退ケント求メタル時掛り裁判役八日內ニ其旨ヲ裁判所ニ申述ヘサルニ於テハ分散人又ハ債主ヨリ其旨ヲ裁判所ニ訴ヘ出スヲ得可シ

裁判所ニテハ裁判役會議ノ室ニテ掛り裁判役ノ申立ト管財人ノ辨解トヲ聞キタル上吟

味ノ席ニテ之ヲ退クルト否トヲ言渡ス可シ

○第五章 分散管財人ノ職務

○第一款 總規則

第四百六十八條 分散管財人ヲ任スル前ニ未タ分散人ノ財産ニ封印ヲ為サハル時ハ管財人ヨリ治安裁判役ニ其封印ヲ為ス可キ旨ヲ求ム可シ

第四百六十九條 又掛り裁判役ハ管財人ノ求メニ從ヒ左ノ諸件ニ封印ヲ為スヲナカル可キ旨ヲ言渡シ又ハ既ニ封印ヲ為シタル時ハ

其封印ヲ取除ク可キ旨ヲ言渡ストヲ得可シ

第一 分散人及ヒ其家族ノ為メ必用ナル

衣服「シウブル」等ヘーモビリエール但シ

此等ノ物件ハ其目錄ヲ管財人ヨリ掛リ

裁判役ニ差出シ裁判役其目錄ニ此等ノ

物件ヲ分散人ニ渡ス可キ旨ヲ附記ス可

シ

第二 日ヲ經スシテ腐敗ス可キ物件又ハ

卑悪ニ至ル可キ物件

第三 分散人ノ商業ヲ為スニ必用ナル物

件但シ分散人ノ職業ヲ停止スル時ハ債

主ノ為メ損害ヲ生ス可キ場合ニ限ル可

シ

第二第三ニ記シタル物件ハ治安裁判役

ノ面前ニテ管財人其目錄ヲ作り其評價

ヲ附記シテ其裁判役其旨ヲ調書ニ記シ

己レノ姓名ヲ手署ス可シ

第四百七十條 腐敗シ又ハ卑悪ニ至ル可キ物

件又ハ保有スルニ許多ノ費用ヲ要スル物件

ヲ賣拂フ事及ヒ分散人ノ商業ヲ繼續シテ行

ハシムル事ハ管財人ヨリ之ヲ掛リ裁判役ニ願ヒ其裁判役ノ許ヲ得タル上ニテ之ヲ為ス可シ

第四百七十一條 分散人ノ簿冊ハ封印ヲ取除キ治安裁判役之ヲ檢視シタル上管財人ニ渡ス可シ但シ其裁判役ハ其簿冊ノ模様ヲ簡畧ニ調書ニ記ス可シ
日ヲ經スレテ金高ノ受取期限ニ至ル可キ手形類又ハ他人ヲシテ金高ヲ拂フノ承諾ヲ為サシム可キ手形類又ハ其他總テ分散人ノ權

利ヲ保全スル處置ヲ為ス可キ手形類ハ治安裁判役封印ヲ取除キ其目錄ヲ記レテ其手形類ヲ管財人ニ渡シ其手形ニ記レタル金高ヲ受取ル可キ手續ヲ為サシム可シ但シ治安裁判役ハ同上ノ目錄ヲ掛リ裁判役ニ渡ス可シ
其他分散人ノ得可キ諸件ハ管財人之ヲ受取リ其受取書ヲ出ス可シ又分散人ニ宛テ贈リタル書簡ハ管財人ニ渡シ管財人之ヲ開封ス可シ但シ分散人其席ニ在ル時ハ書簡開封ノ立會ヲ為スヲ得可シ

第四百七十二條 掛り裁判役ハ分散人ノ模様ニ從ヒ分散人ニ假リノ宥免狀ヲ與ヘテ之ヲ宥免ス可キノ申立ヲ裁判所ニ為スヲ得可レ
 ○裁判所ニテ宥免狀ヲ與フル時ハ裁判所ヨリ分散人ヲレテ出席ヲ為スニ付テノ保證人ヲ立テレムルヲ得可レ若レ分散人出席セサル時ハ保證人裁判所ニテ定メタル金高ヲ拂ヒ其金高ヲ分散人財産ノ合部中債主等ヲキモノニ加入ス可レノ債主等ヲ云フニ加入ス可レ

第四百七十三條 掛り裁判役分散人ニ宥免狀

ヲ與フ可キノ申立ヲ為サ、ル時ハ分散人ヨリ其旨ヲ裁判所ニ願出レ裁判所ニテ掛り裁判役ノ申立ヲ聽キタル上公ケノ吟味ノ席ニテ之ヲ裁判ス可レ

第四百七十四條 分散人ハ自己ト家族トノ為メ其財産中ヨリ養料ヲ受クルヲ得可レ但レ其養料ノ高ハ管財人申立ノ上掛り裁判役之ヲ定ム可レ若レ此事ニ付キ争アル時ハ裁判所ニ訴フ可レ

第四百七十五條 管財人ハ分散人ノ面前ニテ

其簿冊ヲ緘束シ且之ヲ檢視シテ其所得ト負債トヲ算計ス可キ為メ其分散人ヲ招ク可シ若レ分散人其招キニ應セサル時ハ遅クトモ四十八時間ニ出席ス可キノ呼出ヲ受ク可シ分散人ハ省免狀ヲ得タルト否トヲ問ハス故障ノ旨ヲ辨解レ掛リ裁判役其辨解ノ旨ヲ相當ナリト思量スル時ハ名代人ヲ出スヲ得可シ

第四百七十六條 若シ分散人積書ヲ出サ、ル時ハ管財人其分散人ノ簿冊并ニ書類ト其知

リ得ル所トニ從ヒ直チニ其積書ヲ記シテ之ヲ商法裁判所ノ書記局ニ納ム可シ

第四百七十七條 掛リ裁判役ハ積書ヲ作ルニ管シタル諸件并ニ分散ノ原由ト模様トニ付キ分散人及ヒ其使用スル者又ハ其他ノ者ノ申述ハヲ聽クヲ得可シ

第四百七十八條 若シ商人死去シタル後ニ其分散ノ公告ヲ為シ又ハ其公告ヲ為シタル後ニ分散人死去シタル時ハ其寡婦及ヒ子又ハ其遺物相續人積書ヲ作ル事又ハ其他分散ニ

管スル處置ニ付キ本人ニ代テ自カラ出席シ
又ハ名代人ヲ出ストテ得可レ

○第二款 封印ヲ取除ク事及ヒ目錄
ノ事

第四百七十九條 管財人ハ其任ヲ得タルヨリ
三日内ニ封印ヲ取除クテ求メ分散人ノ面
前ニテ又ハ之ヲ呼出シ猶出席セサル上ニテ
其財産ノ目錄ヲ記スルニ取掛ル可シ
第四百八十條 管財人ハ分散人ノ財産ノ封印
ヲ取除ク順序ニ從ヒ治安裁判役ノ面前ニテ

其目錄二通ヲ記シ其裁判役毎日其業ノ終ル
毎ニ其目錄ニ姓名ヲ手署ス可シ○其一通ハ
二十四時間ニ裁判所ノ書記局ニ納メ又一通ハ
管財人之ヲ預カル可シ
管財人ハ目錄ヲ記シ又ハ其財産ノ評價ヲ為
スニ付キ己レノ相當ト思量スル人ヲ擇ミ自
カラ助ト為ストテ得可シ
第四百六十九條ニ循ヒ封印ヲ為サスレテ既
ニ假目錄ニ其價ヲ記シタル物件ハ確定ノ目
録ト照合ハス可シ

第四百八十一條 商人死去ノ後分散ヲ公告シ
 其以前ニ目錄ヲ記シタルヲナキ時又ハ目錄
 ヲ記スル前ニ分散人ノ死去シタル時ハ其相
 續人ノ面前ニテ又ハ之ヲ呼出シ猶出席セザ
 ル上ニテ直チニ前條ニ記シタル法式ニ循ヒ
 其目錄ヲ記スルニ取掛ル可シ

第四百八十二條 總テ分散ヲ為レタル時ハ真
 、管財人其任ヲ得タルヨリ十五日内又ハ假
 リ、管財人真ノ管財人トナリタルヨリ十五
 日内ニ掛リ裁判役ニ分散ノ模様其原由及ヒ

其種類ヲ簡畧ニ記シタル覺書ヲ差出ス可シ
 掛リ裁判役ハ其覺書ニ已レノ説ヲ附記シテ
 直チニ之ヲ檢事ニ送達ス可シ○若シ掛リ裁
 判役預定ノ期日内ニ其覺書ヲ受取ラサル時
 ハ其遲延ノ旨ヲ檢事ニ告知シ且其遲延ノ原
 由ヲ指示ス可シ

第四百八十三條 檢察官ハ分散人ノ住所ニ至
 リ目錄ヲ記スル時立會ヲ為スヲ得可シ
 檢察官ハ何時ニ限ラズ分散人ノ證書簿冊書
 類ヲ檢視セント求ムルノ權アリ

○第三款 商賣品及ヒ動産ヲ賣拂フ
事並ニ分散人ノ得可キ金高ヲ受
取ル事

第四百八十四條 目錄ヲ成就シタル後分散人
ノ商賣品、金銀、貸金ノ證書、簿冊、書類「ミツブル
」ヲヘーモビリエールヲ分散管財人ニ渡シ其
管財人目錄ノ末ニ此等ノ諸件ヲ預リタル旨
ヲ附記ス可シ

第四百八十五條 分散管財人ハ掛リ裁判役ノ
監督ヲ受ケ分散人ノ人ヨリ得可キ金高ヲ受

取ル手續ヲ為ス可シ

第四百八十六條 掛リ裁判役ハ分散人ヲ呼出
シテ其出席シタル上又ハ呼出シテ猶出席セ
サル上ニテ「「」」ヘーモビリエール及ヒ商賣品
ノ賣拂ヲ為ス可キ事、管財人ニ任スルヲ
得可シ
掛リ裁判役ハ其「「」」ヘーモビリエール及ヒ商
賣品ヲ通常ノ法方ニテ賣拂ヒ又ハ商業世話
人又ハ其他公ケニ任ヲ得タル者ノ中ニテ其
世話ヲ得ント欲スル者ヲ擇ム可シ

第四百八十七條 管財人ハ掛リ裁判役ノ允許
 ヲ得テ分散人ヲ呼出シ出席シタル上又ハ呼
 出レテ猶出席セサル上ニテ分散人ノ財産合
 部ニ管スル争ニ付キ和解ヲ為スヲ得可シ
 但シ不動産所有ノ權利ニ管シタル争ト雖モ
 管財人亦其和解ヲ為スヲ得可シ
 若シ其争アル事三百^ララレク以上ノ價高ニ
 管シタル時又ハ其價高不定ナル時ハ動産ニ
 付テハ商法裁判所ヨリ管財人ノ和解ノ證書
 ヲ允許シ不動産ニ付テハ民法裁判所ヨリ其

和解ノ證書ヲ允許レタル上ニ非サレハ其和
 解ノ効ナカル可シ
 裁判所ニテ管財人ノ為レタル和解ノ證書ヲ
 允許セントスル時ハ分散人ヲ出席セシメテ
 其申立ヲ聽ク可シ但シ其分散人ハ何レノ場
 合ニ於テモ和解ノ證書ニ付キ故障ヲ述フル
 ノ權アリ○分散人不動産ニ管レタル和解ノ
 證書ニ付キ故障ヲ述フル時ハ其和解ヲ差止
 ルヲ得可シ

第四百八十八條 分散人預リ所ニ差留メラレ

レトナキ時又ハ一度差留メラレレ後宥免状ヲ得タル時ハ管財人已レノ所為ニ付キ分散人ノ助ケヲ得ンカ為メ之ヲ用フルトヲ得可レ但レ此場合ニ於テハ掛リ裁判役分散人ヲ用フルニ付テノ約條ヲ定ム可レ

第四百八十九條 分散人ノ財産ヲ賣拂フテ得タル金高並ニ分散人ノ為メ人ヨリ取戻シタル金高ハ直チニ之ヲ預リ役所ニ預ク可レ但レ諸費用ノ為メ掛リ裁判役ノ定メタル金高ハ其中ヨリ減ス可レ○管財人ハ此等ノ金高

ヲ受取リタルヨリ三日内ニ之ヲ預リ役所ニ預ケタル旨ヲ掛リ裁判役ニ證ス可レ若レ管財人其金高ヲ預クルトヲ怠リシ時ハ其金高ノ息銀ヲ拂フ可レ

管財人ノ預リ役所ニ預ケタル金高及ヒ其他總テ分散人ノ算計ノ為メ人ヨリ預リ役所ニ預ケタル金高ハ掛リ裁判役ノ言渡ヲ得タルニ非サレハ之ヲ取戻ス可カラズ○若レ管財人其金高ヲ取戻サントスル時故障ヲ述フル者アル時ハ管財人先ッ其故障ノ放除ヲ得

ル上ニ非サレハ之ヲ取戻スヲ得ス
 掛リ裁判役ハ管財人ノ記シタル債主數人ノ
 分派書ヲ允許シタル上ニテ預リ役所ヨリ其
 分派書ニ從ヒ直チニ債主等ニ金高ヲ渡ス可
 キノ言渡ヲ為ス可ヲ得可レ

○第四款 分散人ノ權利ヲ保護スル
 處置

第四百九十條 管財人ハ其任ヲ受ケタルヨリ
 以來分散人ノ負債者ニ對シテ分散人ノ權利ヲ
 保護スル處置ヲ為ス可レ

又分散人自カラ其負債者ノ不動産ニ付キ書
 入質ノ權ヲ記入ヲ求メサルニ於テハ管財人
 ヲリ其記入ヲ求ム可シ但シ管財人其記入ヲ
 求メントスル時ハ其目錄民法第四百一十條見合ニ已
 レノ任ヲ受ケタル證書ヲ添テ之ヲ書入質役
 所ニ出シ分散人ノ債主全負ノ名目ニテ其權
 ヲ記入ス可シ
 又管財人ハ已レノ知リ得ル分散人ノ不動産
 ニ付キ債主全負ノ名目ニテ書入質ノ權ヲ記
 入ヲ求ム可シ○其記入ヲ為シントスルニハ

分散、旨ヲ記シタル目錄ニ其管財人ノ任ヲ受ケタル言渡書、日附ヲ附記シ之ヲ書入質役所ニ差出ス可シ

○第五款 分散ノ負債ノ證書ヲ驗真スル事

第四百九十一條 分散ヲ公告ス可キ裁判言渡ヨリ以來債主等ハ其得ント求ムル金高ノ目錄ト共ニ其貸金ノ證書ヲ書記局ニ出ス可シ但シ書記官ハ之ヲ受取りテ其受取書ヲ與フ可シ

書記官ハ證書驗真ノ調書ヲ記スル時ヨリ五年ノ後ニ至リテハ其證書ヲ擔當スルニ及ハス

第四百九十二條 第四百六十二條ノ第三項ニ循ヒ假リノ管財人ヲ真ノ管財人ニ改メ任シタル時又ハ假リノ管財人ニ代ヘテ真ノ管財人ヲ任シタル時未々其證書ヲ出サ、ル債主アル時ハ直チニ新聞紙入ト書記官ノ書狀トヲ以テ其債主ニ其記入ヨリ二ト日内ニ自身又ハ名代人ヲ以テ其證書ト其求ムル所ノ金

高ノ目錄トヲ管財人ニ出ス可キ旨ヲ報告ス
 可シ又債主若シ其證書ト其求ムル金高ノ目
 録トヲ管財人ニ出サ、レハ之ヲ商法裁判所
 ノ書記局ニ出ス可シ但シ此場合ニ於テハ書
 記官其受取書ヲ與フ可シ
 債主中佛蘭西國內ニ住スルト雖モ其住所分
 散ノ訴訟ヲ管轄スル裁判所管轄外ノ者アル
 時ハ其債主ニ付キ裁判所所在ノ地ト其住所
 トノ間路程五^リミリアメートル^ル毎ニ二十日ノ
 期限ニ一日ヲ増ス可シ

佛蘭西本國外ニ住スル債主ニ付テハ訴訟法
 第七十三條ニ循ヒ其期限ノ猶豫ヲ増ス可シ
 第四百九十三條 證書ノ驗真ハ前條ノ第一項
 及ヒ二項ニ記シタル期限ノ終リシ時ヨリ三
 日內ニ之ヲ始ム可シ○其驗真ハ間斷カク之
 ヲ為ス可シ○其驗真ハ掛リ裁判役ノ定メタ
 ル場所ト日剋トニ之ヲ為ス可シ○前條ニ記
 シタル債主ヘノ報告書ニハ其驗真ノ場所ト
 日剋トヲ記ス可シ○然レバ此事ニ付テハ新
 聞紙ニ記入シ且書記官ヨリ書狀ヲ贈リ更ニ

改メテ債主ニ報告シ之ヲ招集ス可シ
 管財人ノ證書管財人分散人ノ債主タル時ヲ云フハ掛リ裁判
 役之ヲ驗真ス可シ其他ノ債主ノ證書ハ掛リ
 裁判役ノ面前ニテ債主又ハ其名代人ト管財
 人ト相對シテ驗真ス可シ但シ掛リ裁判役ハ
 其驗真ノ調書ヲ記ス可シ

第四百九十四條 既ニ證書驗真ノ濟ミタル債
 主又ハ未タ驗真ノ濟サル者ト雖モ分散人ヨ
 リ得可キ金高アルヲ分散人ノ積書第四百九
 十條見ニ記シタル債主ハ他ノ債主ノ證書ヲ驗

真スルニ付キ其立會ヲ為シ既ニ濟ミタル驗
 真及ヒ後ニ為ス可キ驗真ニ付キ故障ヲ述フ
 ルヲ得可シ即チ其驗真ヲ争フヲ云○分散人モ亦同一
 ノ權アリ

第九百九十五條 驗真ノ調書ニハ債主及ヒ其
 名代人ノ住所ヲ附記ス可シ
 又其調書ニハ證書ノ大略ヲ記シ且其證書ニ
 書入及ヒ塗抹アレハ其旨ト其證書ニ付キ争
 ノ有無トヲ記ス可シ

第四百九十六條 何レノ場合ニ於テモ掛リ裁

判役ハ訴訟人ノ願ニ因リ又ハ自己ノ職務ヲ以テ債主ニ其簿冊ヲ差出ス可キ旨ヲ言渡レ又ハ「コムピルソワル」訴訟法第八百四十六條以下見合ニ因リ其債主ノ住所ノ裁判所ニテ記シタル簿冊ノ抜書ヲ得ン「ト」其裁判所ニ托スルヲ得可シ

第四百九十七條 債主ノ證書ニ付キ争ナキ時ハ管財人其證書ニ何月何日幾許ノ金高ヲ令散人某ヨリ得可キ「ト」許スト云ヘル語ヲ附記シテ之ニ姓名ヲ手署シ掛リ裁判役其裏書ヲ為ス可レ

債主ハ其證書ノ驗真ノ濟ミタル時ヨリ遅クトモ八日内ニ掛リ裁判役ノ面前ニテ其證書ハ真正ナルモノタル「ト」擔フ可シ

第四百九十八條 若シ證書ニ付キ争アル時ハ掛リ裁判役別段呼出狀ヲ送ルノ手續ヲ為スニ及ハス速カニ商法裁判所ニ於テ其争ノ吟味ヲ受ク可キ旨ヲ言渡シ商法裁判所ニテハ掛リ裁判役ノ申立ヲ聽キタル上裁判ヲ為ス可シ

商法裁判所ハ掛リ裁判役ノ面前ニテ其争

ル事柄ニ付キ證人吟味ヲナス為メ證人タル
可キ者ヲ掛リ裁判役ノ面前ニ出席セシム可
キ旨ヲ言渡ス下ヲ得可シ

第四百九十九條 證書ノ争ヲ商法裁判所ニテ
吟味ス可キ時第四百九十二條及ヒ第四百九
十七條ニ循ヒ佛蘭西國內ニ住スル人ノ為メ
定メタル期限ノ終ラサル内ニ確定ノ裁判ヲ
為シ得可カラサルニ於テハ商法裁判所ニテ
其時ノ模様ニ從ヒ債主ト分散人トノ約定書
第四百四條ヲ作ラレムル為メ債主ノ會議ヲ
以下見合

為サシムル下ヲ猶預ス可キ又ハ其會議ニ
取掛ル可キヤヲ言渡ス可シ
商法裁判所ニテ其債主ノ會議ニ取掛ル可キ
下ヲ言渡シタル時ハ證書ノ争ヲ受ケタル債
主裁判所ノ言渡書ヲ以テ特定ノタル金高
ニ付キ其會議ノ席ニ參加ス可キ下ヲ其裁判
所ヨリ假リニ定ムル下ヲ得可シ

第五百條 前條ノ争ヲ民法裁判所ニ申出シタ
ル時ハ商法裁判所ニテ債主ノ會議ニ取掛ル
可キ又ハ之ヲ猶預ス可キヤヲ定ム可シ此

場合ニ於テハ民法裁判所ニテ管財人ノ願書ヲ證書ノ争ヲ受ケタル債主ニ送達シ其他ノ手續ヲ為スヲナク其債主ヲ假リ一債主ノ會議中ニ參加セシム可キヤ否ヤヲ速カニ裁判シ且其參加ヲ許ス時ハ幾許ノ金高ニ至ル迄之ヲ許ス可キヤヲ裁判ス可シ

若シ債主ノ證書ニ付キ罪犯吟味ヲ為ス可キナル時ハ前項ニ等シク商法裁判所ニテ債主ノ會議ニ取掛ル可キヤ否ヲ言渡スヲ得可シ但シ其會議ニ取掛ル可キヲ言渡シタ

ル時ト雖モ其争ヲ受ケタル債主ハ假リニ債主ノ會議ニ參加スルヲ得ス又其債主ハ掛リノ裁判所罪犯吟味スルニテ言渡ヲ為サル間ハ分散ニ管シタル處置ニ干渉スルヲ得ス

第五百一條 特權又ハ書入質ノ權ノミニ付キ争ヲ受ケタル債主ハ通常ノ債主ト看做シテ債主ノ會議ニ參加セシムルヲ得可シ

第五百二條 佛蘭西國內ニ住スル債主ニ付キ第四百九十二條及ヒ第四百九十七條ニ定メ

タル期限ノ終リシ後ハ債主ト負債者トノ約定書ヲ造ルヲ及ヒ總テ分散ニ管シタル處置ニ取掛ル可シ但シ佛蘭西國外ニ住スル債主ノ為メ第五百六十七條及ヒ第五百六十八條ニ記シタル所ハ格別ナリトス

第五百三條 定期内ニ出席シテ擔ヲ述ヘサル債主ハ其人ノ知レタルト否トヲ問ハス金高ノ分派中ニ加ハル可カラス然レモ其出席セサル債主ハ金高ノ全部ヲ債主等ニ分派スル時ニ至ル迄其分派ニ付キ故障ヲ述フルヲ

得ヘレ但シ其故障ヲ述フル費用ハ之ヲ述フル債主自カラ擔當ス可シ

其故障ヲ述フルト雖モ掛リ裁判役ノ言渡シタル金高分派ノ執行ヲ止ム可カラス然レモ其故障ノ申述ヲ裁判セサル内ニ更ニ金高分派ヲ為ス可キ時ハ其故障ヲ述フル債主裁判所ヨリ假リニ定メタル金高ヲ得可キノ權ヲ得其故障ノ裁判ニ至ル迄其金高ヲ取除ケ置ク可シ

其故障申述ノ裁判ヲ為シタル上故障ノ述ヘ

タル債主ノ證書真正ノモノタルヲ分明ナルニ至リシ時ト雖モ其債主ハ掛リ裁判役ノ言渡ニ因リ嘗テ分派シタル金高中ヨリ已レノ部分ヲ取戻サント求ム可カラズ然ル其債主ハ嘗テ初メノ分派ノ時已レノ得可キ割合ノ金高ヲ未タ分派セサル金高中ヨリ受ク可キノ權アリ

○第六章 債主ト分散人トノ約定書及ヒ債主ノ連結

○第一款 債主ヲ呼集ムルヲ及ヒ其

會議

第五百四條 債主ノ擔ヲ述フ可キ定期ノ後三日内ニ掛リ裁判役ハ書記官ヲシテ債主ト分散人トノ約定書ヲ作ルニ付キ其會議ヲ為サレハ可キ為メ債主等ヲ呼集メシム可レ但シ其呼出ヲ受クル債主ハ其證書ノ驗真ヲ受ケ且擔ヲ述ハタル者又ハ假リニ其債主ノ會議中ニ參加ス可キノ許ヲ得タル者ニ限ル可レ其債主等ヲ呼集ムルニハ書記官ヨリ其債主ニ呼出ノ書狀ヲ送達シ且其旨ヲ新聞紙ニ記

入ス可レ但レ其書狀及ヒ新聞紙ニハ其會議ノ目的ヲ記ス可レ

第五百五條 掛リ裁判役ノ定メタル場所ト日刺トニ於テ其裁判役上席ヲ為シ債主等ノ會議ヲ為ス可レ但シ其債主等ハ自カラ出席シ又ハ名代人ヲ出スコトヲ得可シ
分散人モ亦其會議ノ席ニ呼出テ受ク可クシテ其分散人預リ所ニ差留ラレシコトナキ時又ハ省免狀ヲ得タル時ハ自カラ出席ス可レ但シ掛リ裁判役ノ允許シタル原由アルニ非サ

レハ名代人ヲ出スコトヲ得ス

第五百六條 分散管財人ハ分散ノ模様及ヒ是迄如何ナル手續ヲ行フタルヤ又如何ナル法式ヲ遵守シタルヤニ付キ債主等會議ノ席ニ其申立ヲ為シ其申立ノ時分散人ノ申述ヲ聽ク可シ
管財人ノ申立書ハ姓名ヲ手署レタル上之ヲ掛リ裁判役ニ渡ス可レ但シ其裁判役ハ會議ノ席ニテ論辨シタル所ト決定シタル所トヲ調書ニ記ス可シ

○第二款 債主ト分散人トノ約定書

○第一節 債主ト分散人トノ約定

書ヲ作ル事

第五百七條 前數條ニ記シタル法式ニ循ヒ手

續ヲ為シタル上ニ非サレハ債主ト分散人ト

ノ約定書 此約定書ニ因リ債主ト分散人ト為メ

ノ猶七割五分等ノ高ヲ釋ルレ其餘ノ高ヲ相當

其他此類ノ期限内ニ拂還サシムル約定ヲ為レ

為スニ隨意ナリヲ作ル可カラス

其約定書ヲ作ルニハ債主中半以上ノ說ニ從

ノ可ク且其半以上ノ債主ノ得可キ金高ハ此

卷第五章ノ第五款ニ循ヒ證書ノ驗真ト擔ト

ノ濟ミタル貸金并ニ假リニ證書ノ允許ヲ得

タル貸金總高ノ四分ノ三ニ充ルヲ必要ト

ス若シ此規則ニ背ク時ハ其約定書ノ効ナカ

ル可シ

第五百八條 書入質ノ權ヲ役所ノ簿冊ニ記入

シタル債主又ハ其記入ヲ為スニ及ハサルノ

免許ヲ受ケレ債主又ハ特權ヲ有スル債主又

ハ動産ノ質物ヲ得タル債主ハ債主ト分散人

トノ約定書ヲ作ル時ニ當リ己レノ得可キ金

高ニ付キ辞ヲ參フルヲ得ス縱令辞ヲ參フルト雖モ其特權ヲ拋棄スルニ非サレハ投言ノ數中ニ之ヲ算入セス
 其特權アル債主其約定書ヲ作ルニ投言ヲ為シタル時ハ其特權ヲ拋棄シタルト看做ス可シ
 第五百九條 債主ト分散人トノ約定書ハ會議ノ席ニテ皆之ニ姓名ヲ手署ス可シ若シ之ヲ為シタル時ハ其約定書ノ効ナカル可シ○若シ債主中ノ半以上其約定書ヲ承諾スト雖モ

其得可キ金高總金高ノ四分三ニ充タサル時又ハ四分ノ三ニ充ルト雖モ承諾ヲ為ス債主其全負ノ半以下ナル時ハ其會議ヲ止メ八日ノ後ニ更ニ會議ヲ為ス可シ但シ此場合ニ於テハ始メノ會議ノ時為シタル決定及ヒ論說ノ効ナカル可シ

第五百十條 若シ分散人詐偽アル倒産人タルノ言渡ヲ受ケシ時ハ債主ト分散人トノ約定書ヲ作ル可カラス
 又其詐偽アル倒産ノ罪犯有無ノ下吟味ニ取

掛リタル時ハ債主等後ニ分散人無罪タルノ
 分明ナルニ至ルニ於テハ約定書ヲ作ラント
 欲スルヤ否ヲ決定シ且之カ為メ其債主等其
 罪状ノ下吟味ノ終リニ至ル迄總テノ手續ヲ
 為スヲ猶豫スルヤ否ヲ決定スル為メ裁判
 所ヨリ呼出ヲ受ク可シ
 其猶豫ヲ為スニハ第五百七條ニ記シタル如
 ク債主中ノ半以上承諾シ且其得可キ金高總
 金高ノ四分三ニ充ルヲ必要トス○其猶豫
 ノ期限終リレ後約定書ヲ作ルニ付キ會議ヲ

為ス可キ時ハ前條ノ規則ヲ通レ用フ可シ

第五百十一條 若レ分散人過失アル倒産人

ルノ言渡ヲ受ケタル時ハ約定書ヲ作ケル
 ヲ得可シ○然レ其下吟味ニ取掛リタル時ハ
 前條ノ規則ニ循ヒ債主其下吟味ノ終リニ至
 ル迄約定書ヲ作ルニ付テノ會議ヲ延スヲ
 得可シ

第五百十一條 總テ約定書ヲ作ルニ參ス可キ

權アル債主又ハ其約定書ヲ作リシ後ニ其權
 アルノ允許ヲ得タル債主ハ其約定書ニ付キ

故障ヲ述フルヲ得可シ

其故障ノ申述書ニハ之ヲ申述フル趣意ヲ記

シテ約定書ヲ作りタルヨリ八日内ニ之ヲ管

財人ト分散人トニ送達ス可シ若レ此規則ニ

背ク時ハ其故障申述書ノ効ナカル可シ○又

其申述書ニハ次ノ聽訟ノ日ニ其管係アル者

ヲシテ出席セシム可キ呼出ノ旨ヲ附記ス可

シ

管財人一頁ノミナル時其管財人約定書ニ付

キ故障ヲ述フルニ於テハ更ニ他ノ管財人ヲ

任スルノ手續ヲ為レ其新タニ任ヲ得タル管

財人ニ對シ前項ニ記シタル手續ヲ為ス可シ

若シ故障申述ノ裁判商法裁判所ノ管轄ニ非

サル事柄ニ付テハ訴訟ノ裁判ニ管シタル時

ハ其主タル訴訟ヲ他ノ裁判所ニテ裁判スル

ニ至ル迄商法裁判所ニテ其故障申述ノ裁判

ヲ猶豫ス可シ

商法裁判所ニテハ故障ヲ申述フル債主其管

轄ノ裁判所ニ訴ヘ其訴訟ノ手續ヲ為ス可キ

トス

第五百十三條 約定書ニ管係アル數人ノ中最
 モ先ニ願出ル者ヨリ商法裁判所ニ其約定書
 ノ允許ヲ得ント訴フ可レ但シ裁判所ニテハ
 前條ニ記シタル八日ノ期限ノ終ラサル内ニ
 其訴ヲ裁判ス可カラズ
 若シ其期限内ニ故障ヲ申述フル者アル時ハ
 裁判所ニテ其申述ノ當否ト約定書ヲ允許ス
 可キヤ否トヲ一通ノ裁判言渡書ヲ以テ定ム
 可シ

若シ裁判所ニテ故障ノ申述ヲ是ナリトスル
 時ハ總テ其約定書ニ管係アル者ニ對シ其約
 定書ヲ取消ス可キ旨ヲ言渡ス可シ
 第五百十四條 何レノ場合ニ於テモ裁判所
 テ約定書ヲ允許ス可キヤ否ヲ裁判スル前ニ
 掛リ裁判役ハ分散ノ模様ト約定書ヲ允許ス
 可キヤ否トニ付キ裁判所ニ申立ヲ為ス可シ
 第五百十五條 前數條ニ記シタル規則ニ循ハ
 サル時又ハ其約定書衆庶ノ為メ或ハ債主等
 ノ為メ害トナル可キ時ハ裁判所ニテ其約定

書ヲ允許セサル可シ

○第二節 債主ト分散人トノ約定書ノ効

第五百十六條 債主ト分散人トノ約定書ヲ裁判所ニテ允許レタル時ハ積書ニ記シタルト
否トヲ問ハス又ハ證書ノ驗真ノ濟ミタルト
否トヲ問ハス總テノ債主皆其約定書ニ循
可ク佛蘭西本國外ニ住居スル債主ト雖モ其
約定書ニ循
可シ又第四百九十九條及ヒ第
五百條ニ循ヒ假リニ債主ノ會議ニ參ス可キ

免許ヲ受ケタル債主ハ後ニ確定ノ裁判ニ因
リ幾許ノ金高ヲ得可キニ管マヌ亦其約定書
ニ循
可シ

第五百十七條 約定書ノ允許ヲ得タル時ハ債
主中ノ各人分散人ノ不動産ニ付キ第四百九
十條ノ第三項ニ循ヒ記入シタル書入質ノ權
ヲ保ツ可シ○此カ為ノ管財人ヨリ約定書允
許ノ言渡ヲ書入質役所ノ簿冊ニ記入スル
ヲ求ム可シ但シ之ニ反シタル事ヲ約定書ニ
定メタル時ハ格別ナリトス

第五百十八條 約定書ヲ允許シタル後ニ於テ
 ハ分散人其有スル財産ヲ匿シ又ハ其負債ヲ
 實ニ過キ述フルカ如キ詐偽ノ發見シタル時
 ノ外其約定書ヲ取消スノ訴ヲ許サス
 第五百十九條 裁判所ニテ約定書ヲ允許スル
 裁判言渡ノ裁判ヲ經タル事ノ力ヲ得タル時
 ハ管財人ノ職務ヲ罷ム可キ
 管財人ハ掛リ裁判役ノ面前ニテ分散人ニ其
 算計書ヲ渡シ其算計書ヲ論辯シタル上ニテ
 之ヲ確定ス可シ○又管財人ハ分散人ノ財産

簿冊書類ヲ盡ク分散人ニ渡シ分散人其受取
 書ヲ與フ可シ
 掛リ裁判役ハ此等ノ諸事ヲ調書ニ記シテ其
 職務ヲ罷ム可シ
 此條ニ記シタル事ニ付キ争ノ生スル時ハ商
 法裁判所ニテ之ヲ裁判ス可シ
 ○第三節 約定書ヲ取消ス事及ヒ
 之ヲ解除スル事
 第五百二十條 分散人ノ詐偽ニ因リ約定書ヲ
 取消シ又ハ約定書ヲ一度裁判所ニテ允許シ

タル後詐偽アル倒産人タルノ言渡アルニ因
リ約定書ヲ取消シタル時ハ其分散人ノ保證
人其義務ノ釋放ヲ受ク可シ
又分散人若シ約定書ノ如ク執行ハサル時ハ
債主等其保證人ヲ裁判所ニ呼出シタル上又
ハ之ヲ呼出レテ猶出席セサル上ニテ其約定
ノ解除ヲ其裁判所ニ訴出スルヲ得可シ
此場合ニ於テ約定書ヲ解除スルト雖モ其約
定書ノ全部又ハ一部ヲ執行フニ付テノ保證
人其義務ノ釋放ヲ得可カラス

第五百二十一條 若シ裁判所ニテ約定書ヲ允
許シタル後分散人詐偽ノ倒産ノ罪ヲ犯シタ
ル訴訟ヲ受ケ禁錮ヲ言渡サレシ時ハ商法裁
判所ニテ其債主等ノ權利ヲ保護スル為メ相
當ノ處置ヲ定ムルヲ得可シ○其處置ハ裁
判所ヨリ其分散人ヲ赦宥ス可キノ言渡ヲ為
シタル日ニ至リ之ヲ止ム可シ
第五百二十二條 商法裁判所ハ分散人詐偽ノ
倒産ノ罪ヲ犯シタル重罪裁判所ノ言渡書ヲ
見タル上又ハ約定書ヲ取消シ或ハ解除ス可

キ言渡ヲ以テ掛リ裁判役一頁ト管財人一頁
 又ハ數頁トヲ任ス可レ
 其管財人ハ分散人ノ財産ニ封印ヲ為サレム
 可レ
 此管財人ハ遲延ナク治安裁判役ノ立會ヲ得
 テ以前記レタル目錄ト分散人ノ財産金高證
 書トヲ照合セ又別段ノ道理アル時ハ目錄ノ
 附録ヲ作ル可レ
 又此管財人ハ積書ノ附録ヲ作ル可レ
 又此管財人ハ自己其職務ノ任ヲ得タル言渡

書ノ拔書ト分散人其財産ヲ取戻シタル後チ
 更ニ債ヲ負フタル時ハ其債主二十日間ニ驗
 真ノ為メ其證書類ヲ差出ス可キ旨トテ直チ
 ニ貼附書ニ記レ且新聞紙ニ記入ス可レ○又
 同上ノ債主ヲレテ其證書ヲ差出サレムル報
 告ハ第四百九十二條及ヒ第四百九十三條ニ
 循ヒ書記官ノ書狀ヲ以テ之ヲ為ス可レ
 第五百二十三條 前條ニ循ヒ差出レタル證書
 ハ遲延ナク之ヲ驗真ス可レ
 以前既ニ驗真ヲ為レ且真正ナリト擔ヲ為レ

タル證書ハ再ヒ驗真スルニ及ハス但レ以前
 驗真シタル證書ニ記シタル金高ヲ分散人全
 ク拂フタル時ハ其證書ヲ廢棄シ又其一部ヲ
 拂フタル時ハ其證書ニ記シタル高ヲ減ス可
 レ
 第五百二十四條 前條ニ記シタル手續ヲ為レ
 終リレ上ニテ更ニ債主ト分散人トノ約定書
 ヲ作ラサル時ハ債主等其管財人ヲ猶其職ニ
 在ラシム可キヤ又ハ之ヲ易フ可キヤニ付キ
 其說ヲ述フ可キ為メ呼出ヲ受ク可シ

此場合ニ於テハ第四百九十二條及ヒ第四百
 九十七條ニ佛蘭西國內ニ住スル人ノ為メ定
 メタル期限ノ終リレ後ニ非サレハ新タナル
 債主ニ付キ分散第五百六十五條以下見合ヲ為ス可カラ
 ス

第五百二十五條 債主ト分散人トノ約定書ヲ
 裁判所ニテ允許シタル言渡ノ後其約定書ヲ
 取消シ又ハ解除スル前ニ分散人ノ記シタル
 證書ハ債主ノ權利ヲ害スル為メ之ヲ記シタ
 ル時ニ非サレハ取消ス可カラス

第五百二十六條 約定書ヲ記シタルヨリ以前ノ債主ハ分散人ノミニ對シテハ其權利ノ全部ヲ復ス可シ然レ其債主ハ債主ノ全員ニ對シテハ左ノ割合ノミヲ得可キノ權アリ

若シ債主其得可キ分割金高ヲ全ク受取ラサル時ハ其貸金ノ總高ヲ受取ル可キノ權アリ○若シ其得可キ分割金高ノ一部ヲ受取りタル時ハ其残りノ一部ノミヲ得可キノ權アリ

此條ノ規則ハ約定書ヲ取消シ又ハ解除スル

トナクシテ再度分散ヲ為シタル場合ニモ亦通シテ用フ可シ

○第三款 分散人ノ財産分散ノ手續

外為スニ足ラサルニ付キ其手續ヲ止ムル事

第五百二十七條 債主ト分散人トノ約定書ヲ

裁判所ニテ允許スル前又ハ債主ノ連結ヲ為ス前何時ニ限ラス分散人ノ財産其分散手續ノ費用ニ充ツルニ足ラサル時ハ商法裁判所ニテ關係アル者ノ求メニ因リ又ハ其公務ヲ

以テ掛リ裁判役ノ申立ヲ聽キタル上分散ノ
 手續ヲ止ムル旨ヲ言渡ス可シ
 其言渡アル時ハ債主等分散人ノ財産及ヒ其
 身體ニ付キ各自ニ訴ヲ為ストヲ得可シ
 此言渡ヲ為スト雖モ一月ノ時間ハ其言渡ノ
 如ク取行フトヲ猶豫ス可シ

第五百二十八條 分散人又ハ分散ニ管係アル
 者ハ分散ノ手續ヲ為ス可キ費用ニ充ツル資
 本アルノ證ヲ立ルニ因リ又ハ其費用ニ充ツ
 可キ金高ヲ管財人ニ預クルニ因リ何レノ時

ニ於テモ前條ノ言渡ノ取消ヲ訴フルトヲ得
 可シ
 分散人又ハ分散ニ管係アル者其言渡ノ取消
 ヲ得ントスルニハ先ツ前條ニ循ヒ債主等ノ
 為シタル訴訟ノ費用ヲ償フ可シ

○第四款 債主ノ連結

第五百二十九條 債主ト分散人トノ約定書ア
 ラサル時ハ債主等連結シタル者ト為ス可シ
 此場合ニ於テハ掛リ裁判役嘗テ任シタル管
 財人ノ取扱方并ニ其管財人ヲ猶引續テ其職

ニ任シ置ク可キヤ又ハ之ニ代ヘテ更ニ他ノ
 管財人ヲ任ス可キヤ否ニ付キ直チニ債主等
 ト商議ス可シ○特權アル債主又ハ動産及ヒ
 不動産ヲ質トシテ得タル債主モ亦此會議ニ
 參加スルヲ得可シ
 其會議ニテ債主等ノ申述フル所ヲ調書ニ記
 シ商法裁判所ニテハ其調書ヲ見タル上第四
 百六十二條ニ記シタル如ク言渡ス可シ
 從來ノ管財人其職ヲ退ケラル、時ハ分散人
 ヲ呼出シ出席シタル上又ハ呼出シテ猶出席

セサル上ニテ掛リ裁判役ノ面前ニテ新ナル
 管財人ニ算計書ヲ渡ス可シ
 第五百三十條 掛リ裁判役ハ分散人ノ財産中
 ヲリ分散人ニ扶助料ヲ與フ可キヤ否ヲ定ム
 ル為メ債主等ト商議ス可シ
 其會議ニ出席シタル債主等ノ半以上其扶助
 料ヲ與フ可キ承諾ヲ為シタル時ハ之ヲ與フ
 可シ但シ之カ為メ管財人ヨリ其高ヲ申述ヘ
 掛リ裁判役其高ヲ定ム可シ若シ管財人掛リ
 裁判役ノ定ムル所ニ服セサル時ハ商法裁判

所ニ訴ハ出スルヲ得可シ

第五百三十一條 若シ商社ノ分散ヲ為ス時ハ
 債主等分散シタル社中ノ一員又ハ數員ノ為
 メノミニ付キ約定書ヲ承諾スルヲ得可シ
 此場合ニ於テハ商社ニ屬スル財産ノ全部ヲ
 處置スルノ債主ノ連結シタル時ト同一ノ法
 方ニ循フ可シ○約定書ヲ得タル社中ノ者ノ
 一身ニ屬スル財産ハ其社中ノ財産中ヨリ之
 ヲ除キ其者ハ商社ノ財産外ノ金高ヲ以テ其
 債主ニ分割高ヲ拂フ可キ約束ヲ為ス可シ

社中ニテ債主トノ約定書ヲ得タル者ハ總テ
 連帶ノ義務ヲ免カル可シ

第五百三十二條 管財人ハ債主ノ全員ニ代テ

其算計ヲ定ム可シ 算計ヲ定ムルトハ動産不
 動産ヲ賣拂ヒ其他分派ニ

至ル迄ノ手續
 ヲ為スヲ云フ

然レ債主ハ分散人ノ職業ヲ繼續レテ行ハシ
 ムル名代ノ證書ヲ其管財人ニ與フルヲ得
 可シ

債主等ハ管財人ニ其名代ノ證書ヲ與フル為
 ノ會議ヲ為シテ其名代ノ證書ノ期限ト其名

代ノ權限トヲ定メ且管財人分散人ノ職業ヲ
 繼續シテ行フニ付キ其費用ニ充ツル為メ幾
 許ノ金高ヲ管財人ニ預ク可キヤヲ定ム可シ
 ○其會議ハ掛リ裁判役ノ面前ニテ之ヲ為ス
 可ク且其決定ヲ為スニハ債主ノ全員中ニテ
 可トスル者四分ノ三以上ニシテ其四分ノ三
 以上ノ貸金ノ高モ亦總貸金高ノ四分ノ三以
 上ナルトヲ必要トス
 分散人及ヒ此決定ヲ承諾セサル債主ハ其決
 定ニ付キ故障ヲ述フルトヲ得可シ

其故障ヲ申述フルト雖モ決定ノ如ク執行ヲ
 行フ猶豫ス可カラス

第五百三十三條 若シ管財人分散人ノ職業ヲ

繼續シテ行フ為メ債主全員ノ得可キ金高當時
 分散人ニ屬スルニ過キタル高ニ付キ他人ト
 財產ノ高ヲ云フニ過キタル高ニ付キ他人ト
 契約ヲ結フアル時ハ債主中ニテ管財人ニ
 其職業ヲ繼續シ行ハシム可キ承諾ヲ為レタ
 ル者ハ分散人ノ財産中ヨリ己レノ得可キ高
 ニ過キタル部分ヲ自カラ擔當セサルヲ得ス
 然レ管財人其債主等ヨリ授ケタル名代ノ權

利ニ過キタル事ヲ行フタル時ハ其債主等之
ヲ擔當スルニ及ハス

其債主等管財人ノ他人ト契約シタル金高ヲ
己レニ擔當ス可キ割合ハ其分散人ヨリ得可
キ金高ノ割合ニ准ス可シ

第五百三十四條 管財人ハ分散人ノ不動産、商
品、動産ノ賣拂ノ手續ヲ為シ且其分散人ノ人
ヨリ得可キ金高ト人ヨリ負フタル金高トノ
算計ヲ為ス可シ但シ管財人此等ノ事ヲ為ス
ニハ掛リ裁判役ノ監督ヲ受ク可クシテ別段

分散人ヲ呼出スニ及ハス 第五百七十七
條見合

第五百三十五條 管財人ハ分散人ノ故障ヲ述
フルニ管セス第四百八十七條ノ規則ニ循ヒ
分散人ニ属スル各種ノ權利ニ付キ他人ト和
解ヲ為スヲ得可シ

第五百三十六條 掛リ裁判役ハ連結シタル債
主等ヲ初メノ一年間ニ少クトモ一度會議ヲ
為サシメ又別段ノ道理アル時ハ其翌年ニ至
リ更ニ會議ヲ為サシム可シ
其會議ノ時管財人其算計書ヲ差出ス可シ

管財人ハ第四百六十二條及ヒ第五百二十九條ニ記レタル法式ニ循ヒ猶引續テ其職ニ任セラレ又ハ其職ヲ退ケラル可シ

第五百三十七條 管財人分散人ノ算計ヲ定ムル手續ヲ為レ終リタル時ハ第五百三十三條見合掛リ裁判役ヨリ債主等ヲシテ會議ヲ為サレム可シ

此最終ノ會議ノ時管財人其算計書ヲ差出ス可シ○分散人モ亦其會議ノ席ニ呼出ヲ受ク可シ

債主等ハ分散人ヲ宥免ス可キヤ否ニ付キ互ニ其意ヲ述ヘ各其述フル所ヲ調書ニ記ス可シ
其會議ノ終リタル後ハ債主ノ連結ヲ解散シタルト為ス可シ

第五百三十八條 掛リ裁判役ハ分散人ヲ宥免ス可キト否トニ付キ債主等ノ説ヲ記シタル調書ヲ裁判所ニ差出シ分散ノ模様ニ付テノ申立ヲ為ス可シ
然ル上ニテ裁判所ヨリ分散人ヲ宥免ス可キ

ト否トヲ言渡ス可シ

第五百三十九條 若シ分散人宥免ヲ受ク可キ

ノ言渡ヲ得サル時ハ債主等其分散人ノ財産

ト身體トニ對シ各自ニ訴訟ヲ為スヲ得可

シ第五百二十七條見合

若シ分散人宥免ヲ受ク可キノ言渡ヲ得タル

時ハ身體ノ禁錮ヲ免レ唯其財産ノミニ付キ

債主ヨリ訴ヲ受ク可シ但シ別段ノ規則ニ定

ムル所ハ格別ナリトス

第五百四十條 詐偽アル倒産人「ステリヲナシ

民法第二百九十九條見合ノ咎アル者竊盜欺偽破信ノ罪

アル者公ケノ金高ヲ預カル者ハ宥免ヲ受ク

可キノ言渡ヲ得可カラス

第五百四十一條 千八百五十六年七月十七日

左ノ如ク換フ總テ商業ヲ為ス負債者ハ財産

拋棄民法第二百六十五條以下訴訟法第八百九十八條見合ノ利益ヲ得

ント求ムルヲ得ス

然レ此章ノ第二款ニ記シタル規則ニ循ヒ分

散人ノ財産ノ全部又ハ一部ヲ債主等ニ任カ

ス可キ約定書ヲ作ルヲ得可シ

其約定書ノ効ハ他ノ約定書ニ等シク且之ヲ
 取消シ或ハ解除スル方法モ亦同一ナリトス
 債主等ニ任カセタル分散人ノ財産ノ算計ヲ
 定ムルトハ第五百二十九條ノ第二項第三項
 第四項第五百三十二條第五百三十三條第五
 百三十四條第五百三十五條第五百三十六條
 第五百三十七條ノ第一項第二項ニ循テ之ヲ
 為ス可シ
 分散人ノ財産ヲ債主等ニ任カス可キ約定書
 ニ付キ記録税ヲ納ムルトハ債主連結ノ時ト

同一ナリトス
 此一項ニ記スル所ハ商法ニ記
 スルヨリ寧口税法ニ記ス可キ
 所ナリ

辻 士 革 校

佛蘭西商法四終

佛蘭西商法四

五三二七部首

法律書

三

